九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

高圧曝露時の認知機能 ： ストループ干渉による検討

景山, 望

https://doi.org/10.15017/1500479

出版情報：九州大学, 2014, 博士（心理学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：全文ファイル公表済

氏　　名	景山　望			
論　文　名	高圧曝露時の認知機能―ストループ干渉による検討―			
論文調査委員	主　査	九州大学	准教授	光藤　宏行
	副　査	九州大学	教授	三浦　佳世
	副　査	九州大学	教授	中村　知靖
	副　査	九州大学	准教授	佐々木玲仁

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本論文では，高圧環境下での潜水作業時の人間の認知機能をストループ検査という認知心理学的な手法で検討した４つの実験を報告している。第１章では，海中における作業を行うために，滞在環境を水圧と等しい高い気圧に保たねばならないことの解説を行い，そのような環境で今まで行われてきた生理・心理機能についての研究をレビューしている。第２章では，高圧環境下で認知機能を検査する前に，実験で用いるストループ検査の信頼性を確認した。第３章では，潜水作業のために高圧環境を作り出すシミュレータを用いて，ストループ検査，気分チェックリスト質問紙を用いて認知機能と心理状態を測定した。実験は最大気圧 45 気圧と 11 気圧それぞれで行い，最大圧力と圧力の上昇の両方の要因が認知機能を変化させることを明らかにした。第４章では，シミュレータではなく実際の潜水作業環境で実験を行い，圧力の変化が認知機能を変化させる証拠を得た。第５章では総合考察を行い，研究の今後の展望を述べた。

以上のように本論文は，潜水作業のための高圧環境という特殊な環境で作業を行うときの人間の認知能力を実験的に検討したものである。ストループ検査という比較的簡便な検査に着目し，さまざまな実験条件で検査を繰り返し行うことで，認知機能がどのように変化するかを測定した。高圧環境によって認知機能がどのように変化するかを検討した研究はオリジナルなものであり，人命の安全の見地からも非常に価値をもつ研究である。口頭による試験においては，調査委員から出された，(a) 潜水作業と高圧環境の詳細，(b) ストループ検査についての測定尺度と検査間隔の妥当性に関する質問，(c) 潜水作業員の個人的特性などについて質問がなされた。いずれの質問に対しても十分な回答がなされた。

よって，本論文は博士（心理学）の学位に値するものと認める。